

土曜塾

座かんさい 第13回「土曜塾」レポート

京山 龍一

2009.5.9(土)

生年月日…1964年9月18日 大阪府守口市で生誕。
少年野球では、中学時代 全国大会ベスト4。日刊スポーツ杯選抜大会ベスト9獲得。などの成績を認められ、天理高校に進学。甲子園に3回は行けるからと唆されて入学したものの、1年生の秋に突然の出来事。

読売新聞の一面に「天理高校暴力事件」と、でかでかと掲載されて呆然とし、その後1年半ほどの謹慎期間中(おそらく今の高野連の基準であれば一ヶ月程度の謹慎と思われる)、野球寮は閉鎖され、ただひたすら目標のない練習に明け暮れ、なにも考えられませんでした。

その後の人生においては、この事件を契機に全てが変わっていった、その後の人生にとって非常に影響を受けました。まず、決めたのは、絶対に野球の力では、進学・就職はしない。これを決めて実行したことが、その後の大学時代に野球関係者以外との出会いが出来そして、韓国留学へとつながり、いろいろな仕事との出会いがありました。社会



に出、様々なトラブルに見舞われるたびに対応力が付いてきましたが、その事も高校時代の経験が生きて居るように思い、今となっては出場辞退、謹慎処分もよかったと考える今日この頃です。韓国留学の経験を活かし、韓国のお酒の貿易に関わり、外国企業との取引、特にコミュニケーションの難しさを知り、不動産の世界では、バブル経済で名を馳せた人々との出会い、そしてその崩壊を間近で見る事が出来、最近においては、外国ファンドのビジネスのまやかしに接することが出来と、何かと刺激的な世界で生きてこられたのも高校の早い時期に挫折感を味わい、追い打ちをかけるようなマスコミの報道にさらされたお陰かもしれません。

20代、30代と不動産の仕事を通じて、行政の不便によって引き起こされたバブル経済のメカニズム、そしてそれに振り回される企業人、政治家。全てを明かす訳にはいきませんが、私の世代においては、その舞台上で暗躍した人達を知る数少ない人間の一人ではあると自負しております。

その触り、一部についてはお話をさせていただきましたが、文書として残すには差し障りのある事柄が多々あります。その経験をどのように活かしていくかが私の今後の課題であります。

建築美術工芸同人

座かんさい